



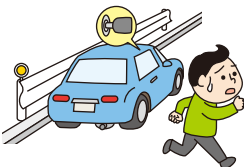
地震時の行動(外出時)

地震から身を守るには

屋外

○運転中

- 急ブレーキは禁物。周囲に注意し徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車します。
- エンジンを切り、揺れが収まるまでは車外に出ず、ラジオから情報を入手します。
- 避難する場合は、車のキーはつけたまま、ドアをロックしないで、窓を閉めます。
- 連絡先が見えるところに書き、車検証などの貴重品を持ち、徒歩で避難します。



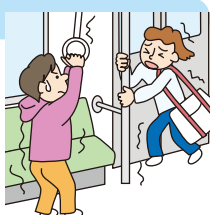
○エレベーター

- 全ての階のボタンを押し、最初に停止した階でおりるのが原則です。
- 停止した階で慌てておりるのではなく、階の状況を見極めるのも大切です。



○鉄道

- 緊急停車に備え、姿勢を低くし、手すりやつり革をしっかり握りましょう。
- 停車後は、乗務員の指示に従いましょう。



○山・丘陵地

- 落石に注意し、急傾斜地など危険な場所から遠ざかりましょう。



屋内

○職場

- 棚やコピー機などから離れ、頭部を守り、机の下に隠れるなど身を守りましょう。
- 外へ逃げるときは落下物などに注意し、エレベーターは使わないようにしましょう。



○学校・塾

- 教室内では、机の下に潜って落下物などから身を守り、勝手な行動はせずに、教職員の指示に従いましょう。
- 通学路が危険なこともあるので、勝手に帰宅しないようにしましょう。

○デパート・スーパー

- バッグなどで頭を保護し、ショーケースなど倒れやすいものから離れましょう。
- 慌てて出口に殺到せず、係員の指示に従いましょう。



○地下街

- 火災が発生しなければ比較的安全なので、慌てずに行動しましょう。
- バッグなどで頭を保護し揺れが収まるのを待ちましょう。
- 停電になっても、非常照明がつくまでむやみに動かないようにしましょう。

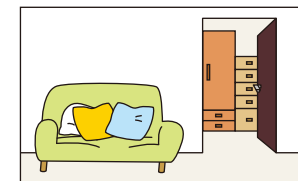
○映画館・劇場

- バッグなどで頭を保護し、座席の間に身を隠して、揺れが収まるのを待ちましょう。
- 停電しても誘導灯や非常灯がつかますので、慌てずに、係員の指示に従いましょう。

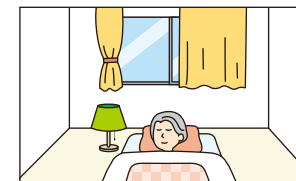


日頃の備え(地震編)

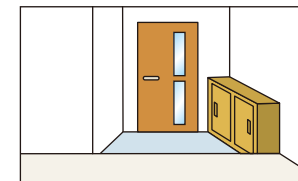
家の中の安全対策



家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる



寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない



安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

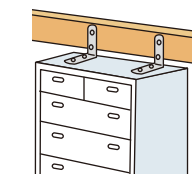


家具の転倒を防ぐ

家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



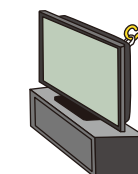
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



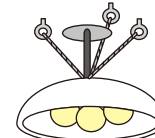
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。またテレビ台の上には水槽や金魚鉢を置かない。



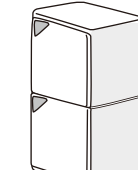
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



停電情報の確認

停電情報は、スマートフォンで関西電力送配電株式会社の停電情報アプリ「関西停電情報」から確認できます。

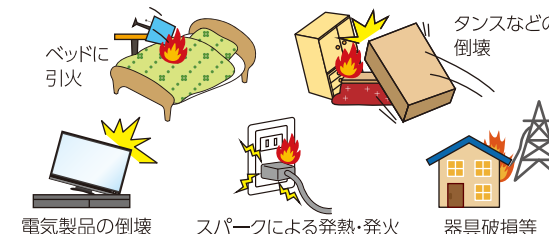
ダウンロードはこちらから▶



通電火災

通電火災とは、停電後、復旧した際の再通電時に発生が懸念される火災です。

- ①地震の揺れや建物の倒壊、浸水や雨漏りによる電化製品の基盤等の損傷により、再通電時にショートが生じ、発火する。
- ②転倒したヒーターや照明器具(白熱灯など)が可燃物に接触した状態で再通電し、着火する。
- ③落下したカーテンや洗濯物といった可燃物がヒーターに接触した状態で再通電し、着火する。
- ④再通電時に発生した電氣的火花により、漏れ出たガスに引火・爆発する。コンセントに水分が付着し、再通電時にトラッキングが生じ発火する。



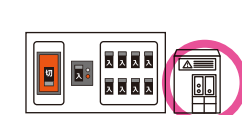
電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感じたときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

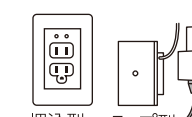
主な感震ブレーカーの種類



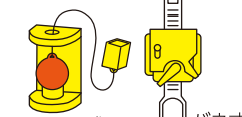
分電盤タイプ(内装型)



分電盤タイプ(後付型)



埋込型



タップ型

コンセントタイプ

おもり玉式

簡易タイプ

都市部で大地震が起きたときは…

▶安全な場所にとどまる

地震発生から少なくとも3日間程度は救助・救急活動が優先されるため、混乱した状態がしばらく続きます。十分な情報がないまま、むやみに移動を開始することは大変危険です。まずは職場や学校、近くの一時滞在施設※など、安全な場所にとどまることを考えましょう。駅や施設からの指示や誘導に従って行動してください。

また、安全な場所にとどまっているあいだは、近隣地域の助け合いにできるだけ参加しましょう。

※一時滞在施設…帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者等を一時的に受け入れる施設。

とどまった後、安全を確認したら…

▶「安全に」「自力で」「歩いて」帰る

帰宅の基本は「安全に」「自力で」「歩いて」です。しばらく安全な場所にとどまった後、様々な方法で帰り道の情報を集めて、「安全に」帰ることができるか確認できたら、帰宅を開始します。

タクシーやバスには乗れない可能性が高いです。「自力で」「歩いて」帰宅するために、十分な準備をしましょう。

「災害時帰宅支援ステーション」のステッカーが貼ってある店舗などでは、水道水、トイレ、情報、休憩の場などを提供しています。自分の体力を過信せず、たまには休憩をとることも必要です。

